

被害者の想いを聞こう

薬害をより深く知るために、悲しい出来事を乗り越えてきた被害者の方の声に耳を傾けてみましょう。自分のこととして感じてください。そして薬害を起こさないために自分たちに何ができるのか考えてみましょう。

この命、つむぎつつけて…

薬害スモン 被害者 ●●●●さん

スモンに罹患したとき、20歳の大学生だった。将来は建築家になりたいという夢を抱いていた矢先、医師から処方された錠剤がスモンに罹患した。スモンによる足の麻痺、重度の下痢などで入院を繰り返した。被害者が一人、また一人と命を落としていった。みんな苦しい体をおして訴訟に臨んでいた。頑張って、頑張るすぎて、ストレスが最高潮に達し、みんな最終的には命を落とすのだ。私の体も限界に近づいていた。でも周囲の人たちに支えられて何とか困難を乗り越えてくれた。私の病気が、私が生きるうえで一番大切なものを見つげるための、長い途上での出来事だったのかもしれない。スモンは原因が究明され、新しい患者が発症することはなくなったが、生涯治らぬ障害を抱えて苦しんでいる人間がたくさんいることを忘れてほしくない。

歯を食いしばって生きて行く

筋短縮症 被害者 ●●●●さん

みなさんは「筋短縮症」という病気を知っていますか。私は5歳の時に首關になって病院で手術を受けたのですが、それ以来、片足が不自由になってしまいました。後に総合病院で診察を受けた結果、「大腿四頭筋拘縮症」と診断されました。40歳を過ぎた頃から、この病気に起因すると思われる病気に次々とみまわれるようになっていきます。一昨年は壊死性筋膜炎、今年になってからは急に膝が痛み始めました。この様子では近い将来、下半身が不自由になり、良くて車椅子が覆たきりになってしまうのか…死よりも恐ろしい恐怖に苛まれ続けています。でも、ここで人生をあきらめてしまえば、私を支えてくれた両親を裏切ることになってしまいます。せつかく与えられた命なので、歯を食いしばって生きて行こうと思います。

悔しい。でも、まだまだ生きたい

C型肝炎 被害者 ●●●●さん

「18年2カ月」。急性肝炎と診断されて以来、今まで続けてきた私の治療の年月である。深く静かに、そして確実に進行していたC型肝炎。第3子を出産した際、予期せぬ出血があり、血液製剤が投与された。肝炎を発症してから16年、医師から肝細胞がんの疑いがあるので詳しい検査をするようにといわれた。なぜC型肝炎→肝硬変→肝細胞がんになったのか原因を知りたかった。そして病院に残されていた自分のカルテに記されていた「フィブリノゲン」という文字を見て愕然とした。そして私は「薬害肝炎訴訟」の原告団に加わった。悔しい。まだまだ生きたい。やっとなんか光が射し込んできた。その方向に向かって歩いてゆけばいいのだ。

悲惨な薬害を繰り返さないために…

陣痛促進剤 被害者 ●●●●さん

みなさんは、陣痛促進剤とはどのような薬か知っていますか。子宮を収縮させて陣痛をおこしたり、強めたりする薬です。効き目に個人差が大きいので、産婦や胎児の状況を十分に観察しながら慎重に投与しなければなりません。しかし、患者に説明をせずに投与したり、不適切な使い方をしたりして母親や胎児が死亡したり、重大な後遺症残ったりする事故が後を絶ちません。私の妻も十分な説明を受けることなく陣痛促進剤を投与され子供を失うという典型的な陣痛促進剤の被害を受けました。以来、様々な医療者や被害者に遭った人々と交流してわかったことは、どの薬害にも共通項があり、同じ構造で被害は繰り返されるということです。みなさんも二度と悲惨な薬害を繰り返さないためにどうすればいいか考えてください。

息子への思い

ヤコブ病 被害者 ●●●●さん

私の息子は健康そのもので、病気ひとつせず素直に育ってくれました。中学2年生の時、突然の頭痛に襲われ、脳腫瘍と診断されて手術を受けました。その時に汚染された乾燥硬膜が移植されていたのです。腫瘍は摘出されましたが、大きな障害が残りました。半身不遂になり、将来を悲観し、息子と死ぬことを何度も考えました。でも息子は「僕は生きたい」と一生懸命に努力をし、頑張って障害を乗り越えることができました。養護学校に編入し、美術の時間には筆を手タオルでくくり付け、何時間もかけて絵を描いていました。将来の夢は絵をいっぱい描いて画廊を開くことでした。しかしその夢を実現させることなく32歳という若さで亡くなってしまいました。二度とこのようなことが起こらないよう、息子の絵と共に薬害根絶を訴えていきたいと思っています。

どんなに苦しかったか…

MMRワクチン 被害者 ●●●●さん

私達の娘は、1歳10ヶ月まで順調に成長していました。しかし、MMRワクチンを接種されたから14日後に重篤な急性脳症に罹り、死線をさまよったほどの苦しい闘病の後、重症心身障害者になりました。どんなに苦しかったか、どんなに恐ろしかったか、私達にも計りきれません。13歳になった娘は、身長体重ともに順調に成長してきましたが、起き上がること、手を使うこと、歩くことなど一切できません。しかし心の成長はめざましいものがあり、その子供らしく純真な姿に私達の方が喜びと慰めを与えられているこの頃です。私達はこれからも、娘の人生をより豊かなものにするため、周囲の方の力を借りながら娘を育てていきたいと思っています。

学習のポイント

- point 1 被害者の声を聞いてどのように思ったかみんなで話し合ってみよう。
- point 2 薬害を起こさないために、薬にかかわる人が果たすべき役割や社会の仕組みについて話し合ってみよう。
例 国、製薬会社、医師、薬剤師、消費者(国民)
- point 3 薬害を起こさないために自分たちに何ができるのか話し合ってみよう。

薬害を防ぐには、どうしたらいいのだろうか？

薬には多くの人がかかっています。薬を作る製薬会社、薬を承認する国、薬を処方する医師や薬剤師、それからもちろん薬を使う私たちもそうです。私たちはそれぞれの立場に立ったとき、薬害を起こさないために何ができるのでしょうか。

国(厚生労働省・独)医薬品医療機器総合機構)

- 薬の安全性や有効性のチェックを行う
- 製薬企業や医療機関から副作用の情報を集めて公開する
- 製薬企業に対して危険な薬の回収など被害が発生しないようするための指示を行う
- 薬の副作用で重大な被害を受けた人に対して救済を行う



製薬会社

- 薬の副作用に関する情報を集めて国に報告する、医療機関と情報を共有する
- 薬の説明書(添付文書)に必要な副作用情報を記載して正しい情報を伝える、新しいことが分かったら説明書を迅速に改訂する
- 薬の危険が分かれば被害が拡大する危険があるとき分かったときには迅速に薬の回収や販売の停止などを行う

みんなが薬の情報を活かす
それぞれの役割を果たす

消費者(国民)

- 自分の病気や自分が使う薬についてよく知る
- わからないことがあったら医師や薬剤師に対して質問する
- 薬を使って具合が悪くなったときに医師や薬剤師に知らせる

医療機関(病院・薬局)

- 薬の副作用に関する情報を国に報告する、製薬企業と情報を共有する
- 薬の危険が分かれば被害が拡大する危険があると分かったときには迅速に国に報告する
- 消費者(国民)に対して薬の副作用についてしっかり説明する



自分が受けている医療や処方されている薬に関心を持とう！

国、製薬会社、医療機関、薬局など専門的な知識を持っている人が情報を適切に活かすことが重要なことはもちろんですが、副作用、処方ミスなど、薬に関するトラブルの多くは、患者の意識次第である程度防くことができます。医師や薬剤師の説明をしっかりと聞いて、わからない

ことがあれば何でも質問し、納得したうえで薬を服用する。薬を飲んで「体の調子がへんだな」と思ったら、すぐに医師や薬剤師に相談する。薬のトラブルから身を守るためには、自分が受けている医療や処方されている薬に関心を持つことが大切です。



「健康被害救済制度」について



薬による健康被害を受けた人々を救済するために、「医薬品副作用被害救済制度」という公的な救済制度があります。これは、サリドマイドやスモンを契機としてつくられたものです。

独立行政法人
pmda 医薬品医療機器総合機構
詳しくはコチラ▶ <http://www.pmda.go.jp/>

救済制度相談窓口

電話番号▶0120-149-931
受付時間▶月～金/9時～17時30分
(土日祝・年末年始は除く)

薬の被害に関するサイト



■厚生労働省(薬害教育支援サイト)
<http://www.mhlw.go.jp/>
薬害の授業に役立つ資料がダウンロードできる教員向けサイト。保護者のみなさんご活用ください。



■独立行政法人医薬品医療機器総合機構
<http://www.pmda.go.jp/>
医薬品による健康被害救済や承認審査、安全性に関する情報を提供するサイトです。



薬に関するサイト

※薬の使い方などについては、保健の教科書などを通じて学習します。



■くすりの情報ステーション
<http://www.rad-ar.or.jp/>
薬のリスクとベネフィットを一般消費者にわかりやすく解説しているサイトです。



■くすりのしおり
<http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>
現在使われている約7,000種類の薬の詳細な情報を見ることができます。



■学校保健ポータルサイト
<http://www.gakkohoken.jp/>
(財)日本学校保健会が運営する子どもたちの保健に関する情報を集めたサイトです。

その他関連サイト



■日本製薬工業協会
<http://www.jpma.or.jp/>
多くの製薬会社が加盟している団体のサイト。薬に関するさまざまな情報が掲載されています。



■日本医師会
<http://www.nippon-med.or.jp/>
開業医約85,000名、勤務医約81,000名が加盟する学術団体です。



■日本薬剤師会
<http://www.nichiyaku.or.jp/>
約100,000名の薬剤師が加盟する学術団体です。

【発行日】平成22年■月

【発行】厚生労働省
〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2
☎(03)-5253-1111 □<http://www.mhlw.go.jp>

年 組

--